

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和4年9月26日（月）
午前9時25分 開会
午前11時06分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 上田 伴子
副委員長 芹澤 正志
委員 浅田 徹、荒木 慎太郎、
石田 清、太田 智博、
竹中 理、福田 嗣久
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 次長 坂本 英津子
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

交通網問題対策等調査特別委員長 上田 伴子

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2022年9月26日(月)9:30～

場 所：第3委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 委員会所管事項の現況について

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

(3) 委員会調査中間報告書(案)について

4 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委員】

2022. 9. 26

職 名	氏 名
委員長	上 田 伴 子
副委員長	芹 澤 正 志
委 員	浅 田 徹
委 員	荒 木 慎大郎
委 員	石 田 清
委 員	太 田 智 博
委 員	竹 中 理
委 員	福 田 嗣 久

【当局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
都市整備部長	澤田 秀夫	城崎振興局 地域振興課参事	橋本 郁夫
建設課長	(欠席) 冨森一靖彦	竹野振興局 地域振興課長	平尾 喜彦
都市整備課長	久田 涉	日高振興局 地域振興課参事	上野 和則
		出石振興局 地域振興課参事	川崎 隆
		但東振興局 地域振興課参事	小川 一昭

8名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局次長	坂本 英津子

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項

2022. 9. 26

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関する事
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関する事

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関する事
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関する事

3 鉄道・路線バス等地域公共交通に関する事項

- 鉄道交通の維持・存続並びに利用促進に関する事
- 市内公共交通網の充実並びに利用促進に関する事

午前9時25分開会

○委員長（上田 伴子） 皆さん、おはようございます。

少し早いですが、おそろいですので、ただいまから交通網問題対策等調査特別委員会を開会いたします。

本当に秋本番になって、大分朝晩が涼しくなりましたが、日中は30度に近いようなことで温度差がありますので気をつけてください。

私、この演劇祭、ずっとなかなか行けなくて、先日、玄武洞公園の無料開放の日に、23日行ってまいりましたら、すごい人でした。ちょっと早めに、8時半からの演劇に7時頃から友人と行きまして、場所を取りまして観劇したんですけども、玄武洞公園のライトアップも初めてだったんですけど、写真で見ると何かあんまりカラフルな感じはなくて、ぼやけた感じだったんです、スマホで撮ったほうがきれいにカラーが撮れて、見た目とやっぱり写真とは違うなと思ったんですけど。演劇も、私、この演劇祭で見る演劇、あんまり感動を受けるようなことがないことが多いんですけど、今回は一人芝居でしたけど、山月記だったかな、すごくよく、ちょっと心に響くぐらい上手っていうんか、結構起承転結も分かる演劇でよかったと思います。

でも、駐車場入るときは、すごい人だった、すごい車だったんですけど、演劇終わって出てみたらがらがらでして、車で来た方は、演劇を見ずにライトアップだけ、無料開放の日だから見て帰られたのかなって思ったんですけど、演劇見る方はすごい多かったです。結局、シャトルバスが出てまして、シャトルバスでの観劇の方が多かったようです。

ただ、気になったのは、市外から、県外とかそこから辺から来てこられる方でしょうけど、ちらちらとマスクをしてらっしゃらない方があったりして、それが普通になってるところもあるのかなと思ったんですけど、私たちはちょっと気になりました。結構ちらほらマスクなしの見物客、観客がいらっしゃったのが気になりました。そんなことで、もう最後

ですので、演劇祭、1個だけ見たなというのが私の感想です。

それでは、ただいまより協議事項に入ります。

最初に、連絡が2点あります。

一つが、所管事項の説明の後、都市整備課より報告があります。2つ目は、富森課長から欠席の申出があり許可しておりますので、ご了承願います。

委員会の協議事項に入ります前に連絡をさせていただきます。

委員会の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用し、発言の最初に課名と名字をお願いします。

それでは、まず、委員会所管事項の現況についてを議題といたします。

委員の皆さんは、Side Books上のフォルダ、交通網問題対策等調査特別委員会の中に配信しておりますので、資料をご覧ください。

それでは、建設課、都市整備課の順で説明をお願いいたします。

はい、どうぞ。

○都市整備部長（澤田 秀夫） それでは、2ページをお開きください。北近畿豊岡自動車道の事業促進ですけれども、北近畿豊岡自動車道は、ご存じのように、全線が事業化となっております。

現在、豊岡道路であります但馬空港インターから病院の横にできます豊岡インターの間につきましては、令和6年、2024年秋の開通を目指して、今現在、トンネル工事、あるいは橋梁工事が進められております。この進捗状況につきましては、前回6月に説明したとおりで、その後、工事が進んでおいて、特段問題ということは聞いておりません。

次に、2つ目の豊岡道路(Ⅱ期)なんですけども、これも、今現在、調査、それから用地測量のほうを行っておられまして、今年度、市としましても、起工式があるかも分からないということで、予算化はしてるんですけども、まだ国のほうからは、具体的な話はお聞きしていない状況です。

この用地測量が確定しましたら、非常に県有地、県が持つて土地が多くありますので、そこさえ取

得すれば、すぐに事業のほうはかかれると思います。特段、交渉相手がいろいろ要望を出されたりとかいうことはありませんので、用地測量さえできれば、次に進んでいくというふうに思っております。

それと、3つ目の早期実現促進大会なんですけども、8月6日に、豊岡の市民会館で、議員の皆様もご参加お願いして、促進大会を行いました。例年ですと、コロナがなければ大体1,000人規模で行ってるんですけども、感染症防止の関係で、400人程度の規模で開催し、国に対してしっかりと予算の要望、それから事業の進捗をお願いしたところです。

これに伴いまして、その下にあります国への要望活動なんですけども、来月、10月13から14日で国のほうに、市長を筆頭に要望のほうに行ってまいります。

それと、最後、その他というところで、これ、日高の山本で、北近畿豊岡自動車道ののり面がずったとこがあって、皆さんご存じだと思います、日高北インターの南側の斜面が、のり面がずっておるんですけども、そこについて、今現在、対策工事のほうをしていただいております、来年の3月末には完成すると、直接通行には支障がない範囲で工事のほうを進められております。

次に、3ページのほうをお願いします。山陰近畿自動車道の事業促進でございます。

これにつきましても、概要の2番目なんですけども、竹野道路については事業化となっており、現在、調査、設計のほうが進められております。

それと、3つ目の城崎道路の豊岡北ジャンクションインターから城崎温泉インターの間なんですけども、現在、国のほうが直轄調査のほうを実施されております。この調査の中身というのは、5つの技術的な大きな課題があるということで、まず一つが、閃緑岩が貫入した地質構造ということで、この閃緑岩が貫入した地質というのは、トンネルなんかを掘ってありましたら、湧水がぼんとう出たりして、非常に危険な岩ということです。

それから、2つ目には、二見水源の近くをトンネ

ル掘ったりするので、そういった二見水源に影響がないかという調査です。

それと、3つ目は、北但層群がおりまして、これは非常に地滑りを起こすような地層となっております。その対策についての検討。

それから、4つ目は、円山川を横断します非常に厚い軟弱地盤のために、橋梁の下部工に対して非常に高度な技術が要るということです。

それと、最後、5つ目には、地域固有の貴重な自然環境、これ、コウノトリでありますとか、それから、玄武洞の近くでいきますと、ツバメのねぐらっていうんですか、非常にツバメが巣を多くしたりしてるところがありますので、そういった自然環境について配慮が要るということで、5つの技術的課題があるということで、現在、国のほうがこの中身についていろいろと検討をされておりますけども、まだどういった内容かというような報告までは聞いておりません。

それと、その下の促進大会、それと要望活動につきましては、先ほどご説明しましたとおり、北近畿豊岡自動車道と山陰近畿併せて、この2つの事業について国のほうに要望してまいりたいというふうに思っております。

今の建設課の事業促進につきましては以上です。

○委員長（上田 伴子） それでは、次、久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） それでは、私のほうからは、空港と、それからバスと鉄道の関係について説明をさせていただきます。

まず、5ページの空港の利用促進と利便性の向上についてですが、特段、今のところ進展したところはないんですけども、ただ、この間、8月の31日に、県が事務局となりまして、但馬空港のあり方懇話会の中間報告にも明記をさせていただきました短期的な施策として示されている利用促進の具体策について、31日に、但馬空港促進検討会、準備会というのがありまして、意見としては、但馬管内の人もそうなんですけど、京阪神の子供らをターゲットにして、その親も巻き込んでいくというような、県外から呼び込むようなこともどうなんだろうと

ということで、そういったような案が出されています。また、引き続き10月にも、準備会じゃなくて、具体的な検討会がまた新たに実施されると聞いてますんで、その中で進めていければと思っています。

それから、6ページ、バス交通の充実と利用促進についてです。

まず、進展したところとといいますと、概要の大項目の2の地域の実情に応じた新たな交通モードの検討というところの中で、(1)の竹野南地区の新たな交通モード実証実験の延長で、10月3日の運行開始を見据えて準備は整った状態になっています。業者さんは、株式会社メルティバスさんをお願いすることで、契約も行いましたし、法的な21条の実証実験のほうも許可を得たということで、3日の運行を目指して、今待っているところです。

それから、その次の(2)番の日高地域の福祉モビリティの実証実験についてですが、これにつきましては、前回のときもそうですけど、6事業者さんを対象に実験を進めていこうという中で、日高のインターの近所のアンドリハさんというところはもう進めるつもりでいるんですけど、あと、もう1点、四季の里ひだかという、植村直己公園の交差点近所にある、そこの四季の里ひだかというところが一緒にやっっていこうと。あと、ちょっと社協さんのほうは、今、参画依頼を行っておるところです。ということで、事業者さんに参画依頼しています。

それから、(3)の日高地域における地域の在り方勉強会の開催ということですけども、これにつきましては、6月以降、3回にわたりまして、日高地域において勉強会を開催し、各地域での交通に係る課題や路線バス、イナカー、チクタクなどの各交通モードの仕組みとか、そのモードに係る市の財政負担状況、利用者の関係とか、実情を勉強会という形を取りまして、説明をしてきました。

本来は、この地域交通の現状把握が目的であって、転ばぬ先のつえじゃないですけど、これから先、急にチクタクが行き詰まったときに、地元の人が困ったなということがないように、勉強会という形を取らせてもらって、何かあったときにでもすぐにでき

るような形で、知識として共有していただきたいということであったんですけども、地元のほうから、この3回の勉強会をもって、最終、市のほうの考え方を示してほしい、今後の方向を示してほしいというような意向がありまして、これを踏まえて、もう一回、10月に再度説明会を予定しております。10月中旬をめどに開催しようとしています。

それから、続きまして、大項目の4つ目の運行事業者と地域と協働したモビリティ・マネジメント及び利用者確保に向けたイベントの実施ということで、(1)の豊岡市ノーマイカーデーの進捗状況についてですが、5月の半ばから結局始めまして、具体的に、実施の回数は月に2倍になったんですから、これに比例しまして利用者も約2倍となっていて、例年ですと、240人ぐらいなんですけど、今は503人ということで、やっぱり回数を増やせば、その分だけ利用の効果というのが出ているような状況です。

それから、次に、市の職員の本庁と振興局間の移動並びに但馬管内出張時の公共交通機関の利用促進について、これにつきましては、9月6日時点でですけども、その当時から、ICOCAとかJRの回数券、バスの回数券、振興局並びに本庁は都市整備のほうで管理をさせてもらいまして、延べ91人、月当たりにしたら大体25人ぐらいなんですけども、それぐらいの頻度で利用していただいております。一番利用者が多いのは、但東振興局と城崎振興局というような結果が出ております。

それから、次に、8ページです。鉄道交通の利用促進ということで、こちらにつきましても、6月以降の話で進捗のあったものについてです。

まず、1つ目は、概要1の利便性の向上のための機運醸成と要望活動、(2)のJR西日本株式会社福知山支社への要望につきましては、ここに書いてますように、7月の21日に、本年度は道路と併せて、特別に北兵庫鉄道複線電化促進期成同盟会として、3市2町の首長さんで、JR西日本の本社のほうに要望に行つてまいりました。

それから、続きまして、8月の29日には、同期

成同盟会と、あと、そのほか2つの期成同盟会があります、今さっき言いました北兵庫鉄道複線電化促進期成同盟会が、うちの市長が会長をしております。それから、同じく山陰本線福知山線の複線電化促進期成同盟会、これ、県のほうの組織、知事が会長、それから、もう一つの日本海と瀬戸内海を結ぶ播但線複線電化促進期成同盟会は、朝来市長が会長さんとなって、この3つの団体で福知山支社へ、これは従来どおり、毎年の要望活動を行ってまいりました。

それから、9ページ、一番最後のページの下の2つの項目、米印の4のほうの、国のほうで進められている鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会、前回のときにも4回目が開催されたということです。結局、最終の5回目の会議が7月の25日に開催をされて、国のほうから、一定の提言といいますか、指針が出されました。基本原則としましては、危機的状況のローカル鉄道については、沿線自治体を中心となり、法定協議会等を設け、利用者や地域戦略の視点に立って、将来に向けた地域モビリティの在り方について、関係者と検討を進めていくということが原則で、国としても、この協議会の円滑な立ち上げとか、その立ち上げた後の進行については積極的に協力するといったようなことか出ました。

その中で、具体的なところのこれっていう具体案は示されてるわけではないんですけども、沿線自治体と鉄道事業者の合意形成や実現に向けた取組で、例えばですけども、この協議会の運営に携わる費用を出したり、あとは、合意形成の部分で、行く行くは地域運賃を導入したらどうかというようなことも、今は国の法律で上限が決められていますんで、その上限を、ちょっと法律のほうを緩和や見直しなど、そういったものの支援に係る費用を予算化したようなことを言っておられました。本市も引き続き動向に注視していきたいというふうに考えております。

それから、最後の米印の5の件ですけども、県が6月に実施というか開催をしました、まず、JRローカル線維持・利用促進検討協議会に引き続き、8月の10日、議会のほうでも質問もありましたけど

も、第1回目となるJR山陰本線の維持・利用促進ワーキングチームの会議が開催されております。

主な内容としては、山陰本線の現状として、2,000人未満の線区は鉄道としての特性を十分に発揮できていないというようなことから、まずは、地域のニーズを把握して、将来のありたい姿と一緒に検討していきたいというような発言が、JRの西日本支社からありました。具体的な利用促進策につきましては、利用者や地域のニーズの把握が必要でありますし、観光利用とか日常利用の視点、それから、二次アクセス等の連携などについても意見が出されております。まだ、具体的な取組までは決まっておりますが、10月の上旬には、第2回目のワーキングも開催されるという予定となっておりますんで、同ワーキングチームの代表である本市としても、リーダーシップを取ってしっかりと意見を取りまとめていきたいと考えてますし、議論を踏まえた上で、有効な促進策については積極的に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

それから、一番最後ですけども、附属の添付資料である、このA4の2枚、豊岡市における交通モードというのが2枚添付をさせてもらってます。ちょっとそれについて説明をさせていただきます。

まず、この最初の豊岡市における交通モードというところを見ていただけたらと思います。

一番左側に路線バス、それから、2つ目には市街地循環バスのコバスについて書かれています。これは、一般乗合旅客自動車運送事業で、道路運送法の第4条、許可を得たバス事業者による運行、いわゆる緑ナンバーによる運行となります。ここにフローが書いてますけども、事業者である全但バスが、まず、国の許可を得て運行します。本市は運行に係る利用料金を除いた費用を補助金という形で全但バスに交付をしております。

それから、一方で、3つ目に書いてます市営バスイナカーと4つ目の地域主体交通チクタクは、今度、それに代わりまして、自家用有償旅客運送、いわゆる道路運送法の第78条の許可を得て、交通空白地を運行するというものです。いわゆる白ナンバーの

車でということになります。このモードにつきましては、同じくフローに書いてますが、本市、豊岡市のほうが国の許可をまず得て、運送事業者とか地元組織、運行業務として委託をします。利用料金は市がそのまま受け取るということで、委託料で行うというものです。

また、一番右側の福祉モビリティーにつきましては、現在、実証実験の準備中ということなので、検討中というような書き方をさせてもらっております。

それから、もう1枚の2枚目のほうの説明に移らせていただきます。

次の自家用有償運送、道路運送法の78条について説明をさせていただきます。

まず、原則としまして、自家用自動車、白ナンバーでは、有償で運送することはできないということになっております。ただし、運送法第78条の除外基準がここに書いてます、3つ設けられております。ここに条文、明記をしておりますが、そのうち、2つ目のアンダーラインが入っておるところです。市町村、特定非営利活動法人等が、地域住民や観光旅客その他の当該地域を来訪する者の運送その他の国土交通省で定める旅客の運送を行うときって書いてますが、要するところは、市町村やNPO等の法人が国の登録許可を得られれば、誰でも乗せて運行することができるということ、条文のとおりには書かせてもらってます。

この部分が、矢印でもその横に書いてますけども、自家用旅客運送に当たりますけども、その運用では、バス、タクシー等が運行されていない過疎地域などにおいて、市町村等が有償で運送するサービスというふうに位置づけられております。

その下に、(1)、(2)とあります、運送種別には2通りありまして、こちらの都市整備課としましては、(1)の交通空白地有償運送ということになります。ちなみに、下にも交通空白地っていうのは、鉄道の駅から1キロ圏外、それから、バス停から500メートル圏外ということで県で定義づけられておるところです。

こういったことがありまして、路線バスやタクシー等の運行路線は、交通空白地でないために、原則でいいますと並走できないことが基本となりますが、うちの豊岡市としましても、まず、路線バスは地域交通のネットワークの根幹であるというふうに考えてますんで、当面、できるだけ路線バスの継続運行、補助していきたいというふうに考えてます。あわせて、イナカーやチクタク、今、実験中のモビリティーの関係などの78条につきましては、交通空白地での並走は可能なんで、これらの交通モードを組み合わせていくハイブリッド的な交通体系を構築していくことが必要であるということだと思ってます。

一番最後に、四角で囲ってますけども、いずれにしても、地域交通のネットワークの崩壊につながるよう、導入に当たっては必要性に十分な議論が必要であるというふうに思ってます。

ということが原則なんですけど、前回の委員会でも出てました竹野南の件では、これが分かるとらんでしたら、最初からできないというふうなことの意見もあると思うんですけども、これにつきましては、去年の11月から今年の1月までは、あくまでも、この運送法の中に21条という実証実験するときがありまして、実験する場合は、別に事業者の了解を得なければならないとかないんですけども、ただ、今回、引き続き10月から6か月の実証実験という中で、地域公共交通会議という公の会議を6月と2月に開催してます。その会議に諮る中で、鉄道事業者さん、路線バスの事業者さんや関係するところをみんな出席して、本来だったら、そこで多数決取れば、何でもオーケーになっちゃうんですけども、一番最後に書いてますネットワークの崩壊につながるので、事業者さんの了解は、別に取らなくてもいいといえ信頼関係のこともありまして、どこの他府県ともこのところは難しく、やはり公的にはこういったところもあり、最終、原則としては、こういったことでもありますけども、運用については、事業者の了解が必要だというふうなところで考えております。以上です。

○委員長（上田 伴子） それでは、説明は終わりました。

質疑、意見等はありませんか。

はい、どうぞ。

○委員（荒木慎太郎） 山陰近畿自動車道と北近畿自動車道なんですけども、要望活動というのは、どういった要望を上げられるご予定なんでしょうか。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 要望活動につきましては、ここにありますように、特に財務省なんかには予算の確保ということで、しっかりと予算配分をお願いしますという、もう事業化になってますので、あとはお金をしっかりつけていただければ、それだけ事業進捗ができますので、そういったことをお願いしてまいります。

○委員長（上田 伴子） はい、どうぞ。

○委員（荒木慎太郎） いつだったかの特別委員会で、芹澤委員が、パーキングエリアだったりサービスエリアだったりとか、お手洗いをするところがないんじゃないかなということ言われてたんですけども、そういった点の要望とかは検討はされないんですか。

○委員長（上田 伴子） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今の本線上に、そういったトイレとかいうような要望はせずに、例えば別で、道の駅とかいうのを、当初、豊岡インターの近くで道の駅というのを考えたんですけども、用地の問題とかがあって、断念して、豊岡インターより北で検討していくということで、今、県と市と、どの辺がいいんだろうかということで、特に、今の豊岡北ジャンクション、もう本線上は、本線から直接道の駅というのは非常に構造的にも難しいので、一回降りて、降りた近くに道の駅なんかを検討できないだろうかということで、今、その辺を検討します。

○委員長（上田 伴子） 荒木委員。

○委員（荒木慎太郎） 以上です、ありがとうございます。

○委員長（上田 伴子） ほかにありませんか。

竹中委員。

○委員（竹中 理） 6ページ、日高地域の福祉モビリティの実証事業ですけど、先ほど6事業ということですけど、今決まってるのが2事業ですか、もう6事業決まってるんですか。事業者、教えてください。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 事業者さんが6事業者ありまして、今決まってるのは、インターの手前にあるアンドリハさんということところ……。

○委員（竹中 理） アンド……。

○都市整備課長（久田 渉） アンドリハ。

○委員長（上田 伴子） アンドリハ。

○都市整備課長（久田 渉） アンドリハです。2つ目は四季の里ひだかというところが、今、その2つは乗ってくれそうだとということで聞いてまして。ただ、今さっき言いました社協さんのほうにつきましては、やはり業務が日常的に多忙だということがありまして、私らが考えてますのは、朝夕、送り迎えた後、例えば日中にその事業者さんに契約されて登録されとる方が、買物や行くときに使っただけならということなんですけど、実際は、社協さんのほうは、もう朝夕の送り迎えの間は、また戻って、お風呂に入れてあげたり、もうずっと車ばかり乗ってるわけじゃないんだということで、今、急に話を進められてもということがあって、今、検討じゃないですけど、その辺で足踏みをするというような状況です。

○委員長（上田 伴子） 竹中委員。

○委員（竹中 理） これは、手を挙げたところが、もうあれですか、手挙げ方式でできるんですか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今のところは、この6事業者さんの手挙げで考えてますけども、もし、特別ということがあれば、別に、ただ、範囲を日高の……。

○委員（竹中 理） 日高町内で。

○都市整備課長（久田 渉） 日高町内です。以上です。

○委員（竹中 理） はい、分かりました。

○委員長（上田 伴子） いいですか。

○委員（竹中 理） はい、いいです。

○委員長（上田 伴子） ほか。

どうぞ。

○委員（太田 智博） 数点教えてください。5ページの飛行機、ターゲット70というので、年間の目標利用率を70%ということで上げておられますけど、当然年間で70%いこうと思いますと、毎月の数値も70%を大体前後をいかないと駄目なのかなと思いますけど、3月の21日で、まん防は解除になりました、4月以降、8月ぐらいの5か月間の実績がもし分かれば教えていただきたいのが1点と、8ページ、JR、これ一般質問の中でも、ある議員から、みどりの券売機の不具合、あれ、JRのほうにも言っていたという回答あったかと思いますが、その後の進捗状況がもしあれば教えてくださいというふうに思います。

以上2点です。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） まず、1点目の但馬空港の利用状況につきましては、4月以降ですけども、4月の時点で40%、次の5月が45%、小数点まで、すみません、正式なほう……（「ええ、ええです」と呼ぶ者あり）いいですか、45%、それから、6月で51%、7月が45%、8月が43%ということになってます。いずれにしましても、前年度比でいきますと、5%から20%ぐらいは利用者のほうは増えていると思いますけども、70%ということからすると、ちょっとまだまだと思います。

それから、2つ目は、みどりの券売機の話だったかと思うんですけども、4月以降、JRのほうに実際、聞き取りに行きました。今の現時点では、窓口のオペレーターが約15人から17人、これはJR西日本全体です。全体でこれで、みどりの窓口が設置してある駅は200駅、これが6月末、台数ではなくて、設置してある駅の数が200。5月、6月からは50台から100台ぐらい、JRは増やしとると言うことは言ってます。ところが、オペレーターさんの数はあまり変わってないというような

ことです。

議会のご質問にもありましたけども、豊岡駅の駅長さんのところに行ったときも、できるだけ来られる人にサポートする形で、空いとる駅員さんつけますし、買われる方につきましても、できるだけ朝夕を避けた形で購入をしてくださいというようなことはお願いはしてるんですけども、なかなかというような状況でございます。以上です。

○委員長（上田 伴子） 太田委員。

○委員（太田 智博） 空港の利用率がほとんど40%台で、当然前年度比から見れば、前年度ほとんどまん防か、そのような適用になってたので、それは増えて当然かなと思いますけど、70%という目標を上げられるのであれば何らかの対策が必要なかなと思いますし、なかなか今、神戸のほうの子供さんなんかも困り込みしながらというふうな話もあったかと思えますんで、ぜひとも頑張ってもらいたいと思いますし、販売機の関係、JRに言っても、なかなか進捗しなければ困るのは市民なので、もう1回元に戻すとか、元に戻すのは無理であったら、豊岡のほうに社員をちょっと駐在させるとか、多分裏側にはおられると思うんですね、券売機の裏側には多分おられると思うんですね、その辺が対応するかしないと。もう券売機置いて、後戻りはできないというのは、お金の面のことを考えると分かりますけど、困ってるのは市民ですし、これ、結構高齢者のみだけではなくて、若い子たちもなかなか困ってるというふうに聞きますので。何で困るのかというのは、前に高齢者の方が並んでおられるので、自分は速く買えるんですけど、順番が回ってこない。ICOCAなんかのチャージする機械も、機械は全部で3台ありますけど、1台しかないとか、「e5489（いいごよやく）」での予約してる券売も、全ての機械ができないとか、そういうふうに機械は3台ありますけど、全てが同じ機械ではないので、なかなかできる機械に行列ができるようなことをよく聞きますんで、何らかの対策を早急にさせていただいたらというふうに思います。でないと、なかなか利用促進も伸びないのかなというふうに思いま

す。以上です。

○委員長（上田 伴子） ほかありませんか。

○委員（浅田 徹） よろしいですか。

○委員長（上田 伴子） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 今のJRのみどりの券売機に関連で、今聞いてましたとおりに、非常に無人化ということで、さらに増やしたと、ただ、当然オペレーターは増えてないという。これ、特に山陰線の今後のビジョンといいますか、何せ促進していくという市の立場でいけば、幾らJRに、そこに職員配置してくれよといっても、これはもう、はっきり言って私はもう無理だと思ってます。もしもやるんだしたら、市が独自に、ある程度、1年とか切って、券売機の前に、市が独自で、例えばJRのOBさんとか、嘱託的な、そういう職員を配置するぐらいな気でないと、なかなかJRにお願いに行きます、お願いに行く、僕は全然がちが明かないというふうな考え方を持ってます。その辺の考えについてはどうでしょうか。

これから非常に、利用者の促進ということで、やっぱり豊岡、集中しますので、そこでトラブっていったら、全然このプランといいますか、これもう尻すぼみという、なかなか打開できないと思うんですけど、市のその辺の、あるのかないのかというよりも、そういう腹をくくらないといけないんじゃないかなという思いが、どうでしょうか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 例えば今の委員言われるのもそうですけど、この間、答弁させてもらった中では、使い方、動画を撮って、広報に、それも実際は、その方がそこに見られないと駄目なんですけども、今言われたようなこともちょっと模索をしたいと考えております。以上です。

○委員長（上田 伴子） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 即効性といいますか、一々動画を見て理解して、やはり人がついて、しっかり、いろんな対応力といいますか、やっぱり現場主義でいかないと、画像を流すというふうなことで、すごく甘いんじゃないかなという思いがありますので、

ぜひそういう面でやっぱり検討、取りあえず、じゃあ、長い期間じゃなくて、ある程度慣れていただくといいますか、そういうときに限って、やはり検討すべきじゃないかなという、強い思いがありますので、ひとつこの辺は検討をよろしくお願ひしたいと思います。

それと、ちょっと心配しますが、これ、2ページですかね、山陰近畿です。特に城崎道路ですけども、これは以前から、今、特に山陰近畿、兵庫県が事業主体で進められてるわけですけども、円山川とか、特に今、部長のほうから、5つの課題があると、それぞれ大きな課題かなと思ってます。

ただ、ルート帯というよりも、線としては決まってきましたので、さらにこれだけの5つの課題を、これを、いやいや、国が駄目だと、やっぱり県でやってくださいということの中では進まないのかなという気はしてます。この辺で、直轄調査の実施で、県が持ってる課題なのかどうか分かりませんが、この辺も含めて、国の、今の最新のといいますか、こういうことがあるんだけども、そのことについては、いやいや、これはもう課題なんだけども、当然これ、国が主体になって直轄施行でいけますよと、そういうふうな動きとか、話をされてる中で、これはもう代行やらないと、これはとっててもそういう時代で無理だと、その辺の動きとか情報について、もう少し詳しく説明していただいたらと思うんですけど、どうでしょうか。

○委員長（上田 伴子） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今、浅田委員がおっしゃってた内容なんですけども、まず、都市計画決定を打ってますので、もう路線はもう確定してます。当然、その路線の中で、さっき言いました5つの課題があって、これについて、今、国のほうが調査を実施されてて、どういった対策をするとかいったことはまだ報告は受けてないですけども、これ、県といたしましても、当然もう国に直轄権限代行で事業をやっていただくというようなスタンスで、国に対してはお願いをされてますので、また、県に事業が戻ってきたりというようなことは、今のところ想定

はしておりません。

○委員長（上田 伴子） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 確かに、今言われたとおりに、都市計画決定ですから、ルート帯から、さらにもう線になってると、この時点でこういう課題がありながら、そこに決定をされたという。ところが非常に、まだボーリング云々ということで、城崎大橋の件もありますし、そういうことも含めて、さらに詳細な調査を行われるとかいうような、それは悪いですけども、やっぱり地理的なことで、何か問題があれば、都市計画のルート変更ということも当然視野に入れる。ところが、そうなれば、さらに期間的には延びていきますので、その辺についての、今言ったように、もう少し詳しい動きをお願いしたいと思いません。

○委員長（上田 伴子） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） またそういった情報については、国のほうからいただくように、こちらからも働きかけていきます。

こういった課題をクリアするのは、非常に事業費が莫大なものになるので、やはりもう国にお願いせざるを得ないというふうに思っておりますので、引き続き情報についてはいただくように努めてまいります。

○委員長（上田 伴子） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 特に、今言われたように、非常に莫大な予算、執行予算、必要なわけで、促進大会に合わせて、ずっと切れ目のない要望といいますか、強い意思を持って促進のほう、努力をしていただきたいと、お願いしておきます。以上です。

○委員長（上田 伴子） ほかにありませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 全般に聞かせてもらいますけれども、まず一つ、さっき空港の利用率は言っていました。それであと、コロナ前に比較して、全但バスの利用率は大体平均してどれぐらいになっているのか、それから、JRの豊岡でよろしいけども、その乗降率はどれぐらいのパフォーマンスなんだろうかなということがちょっと知りたいです。

というのは、コロナ前からまた普通に戻すように政府が強力に動いておりますけれども、今現在か直近で、どの辺に推移しているのかということが一つ知らせていただきたい。

それと、もう一つ、言うておきますけれども、但馬空港の兵庫県、あるいは兵庫県会の動きとはどんなものがあるのか、これもちょっと知らせてください。但馬空港の滑走路延長ですか。

それと、もう一つは、もう全部言うておきますけれども、但馬空港の利活用のさっきのターゲット70の問題、それから、もう一つ大きいのは、JRも今、路線切捨てという言い方しますけども、その問題、ともに利用率を上げんなんという命題が豊岡市に振ってるんですけども、その辺をどう、両方、両頭で考えておられるのか、その辺のことも考え方を聞かせていただきたいと思いません。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） ちょっとバスの利用率は、もう1回、後で資料を提出させていただきますと思いますが、どうでしょうか。

○委員（福田 嗣久） たしか減ってるほうだろう、もちろん、コロナ前から比べたら。

○都市整備課長（久田 渉） そうですね、そうです、若干は減っております。

○委員（福田 嗣久） 3割ぐらい減ってるか。

○都市整備課長（久田 渉） いや、そこまでは減ってないです。

○委員（福田 嗣久） 減ってない。

○都市整備課長（久田 渉） はい。

○委員（福田 嗣久） 2割ぐらいですか。

○都市整備課長（久田 渉） これ、ちょっと路線ごとなんで、ちょっとまた……。

○委員（福田 嗣久） そうですか、はいはいはい。

じゃあ、JRのほうは。

○都市整備課長（久田 渉） JRは、ちょっと公表しないんです、今。

○委員（福田 嗣久） 公表しないんか、そう。

○都市整備課長（久田 渉） はい。この間の2019とか、新聞に出てた、ああいう節目節目のとき

には出してもらえるんですけども、毎年の利用者数は、今は公開されてないということです。

○委員（福田 嗣久） なるほど、公表しないのか。

それから、但馬空港の何とか区域の延長の話で、兵庫県自体の意向の動向、意向というか動向というんか、それや兵庫県会の動向、その辺はどうですか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今さっきも言いました利用促進は短期ですけども、あくまで、今度は在り方懇談会の中で、中期目標として滑走路端の延長、RE S Aの検討があります。今のところは、県のほうも、令和8年度なんで、令和9年の3月までに、工事じゃなくて設計でも、とにかく何らかのアクションが起こればということで、それについては県のほうも、やらないとは言っていないです、そういった方向で中期の目標とし立てているということで聞いてます。

○委員（福田 嗣久） やろうという方向で考えてるんですか。

○都市整備課長（久田 渉） それは、そういう航空法の関係で定めがちゃんと決められてますんで、その方向で調整しとるということです。

○委員（福田 嗣久） 分かりました。

先ほどの件ですけども、JRの線区の見直しのことは出してましたけど、公表しないということか。公表しないということの中で、JR側は利用促進、あるいは市のほうも利用促進を頑張らましよういうて、豊岡市もそうだし、香美町も朝来もそういうふうだけど、執務上、公表せずに頑張ってくれということか、JR側は。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） それにつきましては、今度またワーキングありますんで、その中で、そういったことが、要するに情報として、数字として。ただ、JRのほうも、2つ掲げてたと思うんです、ワーキングの中では、沿線自治体と鉄道事業者が寄り添っていくということも言っていたんですけども、2つ目としては、しっかりとした数値、根拠を示して検討していきたいというようなことをJRも言

ってますんで、それは、このワーキング検討委員会進む中で……。

○委員（福田 嗣久） ある程度出して。

○都市整備課長（久田 渉） はい、それは出てこないとやっぱり進まないということになるんですしたら、そういった方向で、うちも公開を要求していくということになると思います。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） なるほどね、大体分かりました。

そうすると、豊岡市にとっては、空港のターゲット70の利用促進に当然補助金が要ります。それから、JRの乗降率がどれくらいかということがはつきり分かりませんが、多分3割ぐらい減ってるんだと思うんですけども、それに対して利用促進を図ろうと思えば、またそこへ補助制度なり補助金のそういう体制をつくっていかなあかんというようなことは考えられるわけですけども、それは両道で考えていこうと思っておられるのか、その辺はどうですか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 当面は、市として、沿線自治体が補助金出すというようなことは、考えておりません。あくまでも利用者を増やす、特に今年、JR西日本が、兵庫県と組んで、デスティネーションキャンペーンというのを始めて、今年、2022がプレイベントで、来年23が本チャンの、大規模なイベントで、都道府県とJR各6社が、その年その年によって都道府県とマッチングしてイベントを開催するというようなことと、あと、2025年の万博も見据えて、今、そこら辺のところから、とにかく利用者を増やそうというところが一番なんで、今すぐにそういったことというのは考えておりません。

○委員（福田 嗣久） 考えてない。

○都市整備課長（久田 渉） はい。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） そうすると、香美町なんかは、それやっていたんじゃないかな、もう一つ、香美町と、

それから朝来市なんかはね。それはどうですか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 議会のときにもありまして、いろんなことを香美町さんも朝来市さんもやっておられるんですけども、うちは、端的な、瞬間的にぱっとするような手だてではなくて、ある程度継続性を持ったところの施策として、ピンポイントで打っていききたい、継続性の高いところで打っていききたいんで、朝来さんとか香美町さんのような短期間で効果がすぐに出ないというんか単発で終わってしまって、結果的に長続きしないのではないかといいことがありますんで、その辺を踏まえて、継続性のあるようなところで施策を展開していききたいというようなことを思っています。以上です。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） ということは、今、そういう補助制度は考えてないということですね。

○都市整備課長（久田 渉） はい。

○委員（福田 嗣久） はい、分かりました。

それと、もう一つ、前回かな、誰に言うたか忘れちゃったんですけど、JR西の株式を何ぼか買うたらどうだい、それは市長に言うてくれたか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） すみません、市長には言っていないんですけども、JR西日本さんのほうにも確認させてもらったら、結論は、豊岡市として買うことも全然可能ですと。

○委員（福田 嗣久） 多分可能ですわな。

○都市整備課長（久田 渉） はい。全然駄目だということはないんで、例えば豊岡市だけ買うとか、沿線自治体が一緒になって、ただ、それが、どれだけ買ったときに、どこまで購入することが効力が出るのかどうかといったことは確認してないんですけど、物理的に買うことは可能です。以上です。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） そうでしょうね。物理的に買うことは可能だと思いますし、その影響をかなり強力に行使しよう思うたら、やっぱりパーセンテージがあるんで、そんなことはとてもできないとは思

うだけども、私が考えてるのは、沿線自治体で香美とか新温泉とか朝来とか養父とか豊岡とか、もうまとめて、どっちにしたって少量しかできへんで、少量でも買って、さっきの説明であった、毎年、福知山支社と本社に要望言うておられますわな、やっぱりそういうこの話のネタにもなるんで、少しずつ買ったらどうかなと思うような気がするんだけど、また、市長に言うてみたら。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 言うてみます。

○委員（福田 嗣久） 言うてみる。ちなみに、2.5ぐらいのパーセンテージの利払いはするんで、基本的には損せえへんような気がするけどな、発言がしやすくなるし、いろいろと面白いんじゃないかなと思って。2.5というのは、例えば今の値段が大体何ぼかいうから、1株が50万円ほどだわ、50万円ほどで、それに対して2.5%ぐらいの年間の配当率があるんで、別に今のことを考えたら、ほとんどゼロ金利ばかりだから、十分ペイできるような気がするんで、一遍、市長に言うてみなったらどうですか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） ちょっとまた打診をしてみたいと思います。

○委員（福田 嗣久） はい。以上でよろしいか。はい、ありがとうございます。

○委員長（上田 伴子） ほかにありませんか。石田委員。

○委員（石田 清） すみません、私もうっかりしとったんですけども、城崎から鳥取間というのは、特急は走ってないんですか。（「1本走ってる」と呼ぶ者あり）1本走ってる。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） はまかぜは走ってま

す。

○委員（石田 清） 走ってる、1本だけ。

それと、よろしいですか。

○委員長（上田 伴子） 石田委員。

○委員（石田 清） 先ほどの、この前もちょっと

言ったんですけど、JRの神戸支社長が、課長も同じこと言われたんですけども、イベントなんかの1回限りのものでは話にならないと、はっきり言っておられたんですよね。その中で、出てくるのがイベントの話なんですけども、基本的に、JRさん、通学者なんかを中心とした日常生活の中で使う人がほぼと、それから、本当に広域ネットワークという意味からいえば、先ほど言いました特急が走ってるか走ってないかで全然違ってくることがあって。

ただ、今回のイベントというのが、ターゲットをどこへ絞るかといったら、外国人旅行者というのが一つの固まりとして出てくるのかなという意味では意味があるのかなと思うんですけども、JRさん、そこら辺じゃ納得できないんじゃないかなと思うんですね。そこら辺の、誰を事業者というのをはっきりさせないと対策も出てこないんで、どこを狙うかという話で膨らませていかないと、もうとにかく切捨てという話に直結していっちゃうというふうに思います。よろしくをお願いします。

○委員長（上田 伴子） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今回の県の中の利用促進の協議会におきましても、鉄道利用については、通勤、通学の日常利用と、そうでない観光客なんかの非日常利用があります。どっちかといえば、もう非日常のほうにちょっと軸足を置いて、そちらを伸ばすことによって、通勤、通学の方、地元の方がそういったものを利用して使わせてもらっていかうかというようなちょっと方向で、今、県のほうの協議会はなっております。例えばそこで県のほうの方針が出ましたら、やはり大まかな方針しか出ませんので、あとは地域にあった、隙間を埋めるというわけではないですけども、そういった利用促進策を今後考えていきたいというふうに思います。

やはりさっきも繰り返しになりますけども、日常利用の方より、非日常利用の方をターゲットに、要するに旅行者というのがターゲットになろうかというふうに思います。

○委員長（上田 伴子） いいですか。

○委員（石田 清） よろしいです。

○委員長（上田 伴子） 芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） 今の話なんですけども、やみくもにターゲットターゲットって言っても仕方ないので、考え方の一つとして、いわゆる100キロ、200キロ圏内というのは大体車を利用する人が多い、300から700ぐらいまでの間が鉄道が多い、それ以上になると飛行機の利用になってきます。ということは、マーケットの地域が大体限定というか、大体この辺に力を入れればという、その辺はやっぱり県同士の、都道府県同士の連携だとか、そういうものを大交流課なり、TTIなり等の連携で、やっぱりある程度ターゲットをそういう地域に絞っていく、300キロから700ぐらいなら、新幹線使えば大分700キロぐらいでも移動できる、そういう考えをちょっと念頭に置いて、ぜひお願いしたいと思います。

委員長、意見です。

○委員長（上田 伴子） いいですか。

○委員（芹澤 正志） はい。

○委員長（上田 伴子） ほかにありませんか。

それじゃあ、私のほうから1点、今回の委員会が最後になりますので、ちょっとこのバス交通、鉄道交通、空港のことも含めてですけども、各振興局の方、来ておられますので、振興局の住民の方と接している中で感じておられること、また、振興局の中で感じておられることで、この交通網のことについて、各振興局ごとに発言をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

突然振ってすみません。簡単で結構です。

はい。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） 城崎地域ですが、以前もちょっとお話をさせていただいたかもしれません。市政懇談会の中で、地元からとしましては、右岸地域、戸島とか楽々浦とか、あちらのほうの公共交通がないという中で、ご要望等が出ております。それにつきましても、都市整備部のほうからご回答させていただいている状態なんです。以前も実証実験的なものをしていただきまして、

それで、実際、利用者が大変少ないというような結果が出て検討していただいているというお話をいただいております。今後も城崎大橋が新しく架け替えになったり、その先、城崎道もつくという中で、状況に応じて検討のほうはしていく必要があるかなとは感じています。以上です。

○委員長（上田 伴子） はい、どうぞ。

○竹野振興局地域振興課長（平尾 喜彦） 私の住んでいるところが、まさにこの6ページの竹野南地区新交通モードの実証実験の地域でありまして、昨日も地区の集会のほうで、また10月からというか、9月でもうイナカーは走らなくなるんだということとをみんなで認識しておりました。

また、この実証実験のほうも、前回までは利用者のほうの届出が必要だったのが、今回は必要なくなるんだということ、地区のみんな、私以上によく知ってまして、少し感心したようなところがあります。

ずっとイナカーなくなったら困るんだ、バスの走らない状況は困るんだと言っておられたんですけども、現実を受け止めて、今度は新交通モードの利用のほうを推進していこうということで、地区のほうで話しして、区長さん、一回話ししておられましたので、少し私としては喜んでおります。

振興局としてということではないんですけども、以上です。

○委員長（上田 伴子） ありがとうございます。

はい、どうぞ。

○日高振興局地域振興課参事（上野 和則） バス交通の件で、日高地域における地域交通の在り方勉強会は、過去3回開催されておりますけれども、振興局としましても、この会議に参加させていただき、聞かせていただいております。

その日高地域の中でも、その地区によって、やはりかなり、考え方、状況が違うというところもあります。関心を持って大勢来られる地区もありますし、それほど心配してないよというようなところもあります。いろいろな交通モードを都市整備部のほうからご紹介していただきまして、自分の地区はど

の交通モードが合うのかなというようなことは、いろいろと意見も出されております。

ただ、今の交通網というか、その事業者さんで、何とか現状を維持してほしいなという意見を述べられるところもありますけれども、この2年、3年先の話ではなくて、もうちょっと先を見据えてどうなるのかな、何が適切なのかなというようなところの検討もしていけないとは思っています。

また、10月に、今まで3回の勉強会を踏まえた、いわゆる総括的な会を持たれるということなので、また、活発な意見がそこで聞けて、その先の方向づけができればいいなと思っております。以上です。

○委員長（上田 伴子） ありがとうございます。

はい、どうぞ。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） 地域交通についてですが、住民の方からはあまり声のほうは聞いてないんですけども、チクタク奥山のほうで、運転手さんの方が、今、大分高齢になってきたということとでして、今年の6月から、3名の方が新しく運転手さんになられたということがお聞きしてまして、奥山の地区の方がすごく喜んでおられたということでお聞きしております。

出石から以上でございます。

○委員長（上田 伴子） はい、どうぞ。

○但東振興局地域振興課参事（小川 一昭） 但東におきましては、チクタクの運営で、地元組織に協力いただきまして、誠にありがたいと思っております。

実際、路線変更とか時刻変更につきましては、都市整備部が、変更がありましたら、適切に説明会を開いて、住民の意見を吸い上げていると思います。

また、今回、私は出席していないんですけど、ホームページを拝見させていただきましたら、統合問題、やはり合橋、高橋のほうで、スクールバス関係が地域の皆さんにとっては不安だと思います。こちらにつきましては、教育委員会がしっかり議事録をホームページで出したり、住民の意見を聞きながら対応していますので、皆さんもご理解いただいていると思うところです。

また、何か意見がありましたら、都市整備部、ま

た、いろんな機関と連携しながら対応していきたいと思っております。以上です。

○委員長（上田 伴子） ありがとうございます。

今の各振興局の方のご意見をお聞きして、委員の皆さんで何かありましたら。

太田委員。

○委員（太田 智博） すみません、出石の川崎参事のほうにちょっと確認したいんですけど、3名の運転手が増えたということなんですけど、もし、年齢等が分かれば教えていただきたいと思うんですけど、分かりますか。

○委員長（上田 伴子） はい、どうぞ。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） 生年月日が分かります。

○委員（太田 智博） 生年月日でもいいです。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） すみません。

○委員（太田 智博） 生まれた年だけでいいです。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） 昭和30年の方と昭和32年の方と昭和35年の方です。

○委員（太田 智博） ありがとうございます。今、深刻な運転手の不足というのがずっと書かれてるんですけど、これから、60歳以降の定年延長もどんどん進んでいって、民間もそれが増えてくると、60歳過ぎても普通に会社にお勤めの方が増えてくる中で、なかなかそれになると、さらに運転手さんの採用というのが少なくなるのかなと思ったので、ちょっと年齢を教えていただきたくて確認させていただきました。以上です。

○委員長（上田 伴子） ほかにはないですか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 一つ忘れておまして、昨日、一昨日だったか、チクタク資母の、憤慨しとんなったんで、新聞報道で、無車検車のことで、大変不細工な話やなと思って。憤慨されとったというのは、新聞報道では、車検の案内をコミュニティに送ったという話が新聞に出とったけど、そんなもん、受け取っとらへんでということで、あんな書き方を、本当どういうこっちゃなということで非常に怒っとな

なった、2人、3人が。だから、それを怒る怒らんよりか、あつてはならんことなんで、その辺のことの徹底はぜひ、都市整備ですか、どういう手違いがあつたかは追及はいたしませんけれども、ああいったことがないように、ぜひとも、えらい軽はずみなことやなと思って見させてもらったり、聞いたりしておりましたんで、くれぐれもその辺はしっかりと管理できるように、体制として管理できるようにせんとあかんと思うんで、お願いをしておきますけど、責任者として一言どうですか。

○委員長（上田 伴子） 後ほど説明……。

○委員（福田 嗣久） あるんか。

○委員長（上田 伴子） はい、そのときでいいですか。

○委員（福田 嗣久） よろしい、そのときで、はい。

○委員長（上田 伴子） ほかにはないですか。

それでは、説明は以上ですが、ほかにはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 伴子） 私、すみません、1点だけ。

鉄道のこと、福知山支社へも要望活動をされてますが、今、福知山のほうから本社のほうに、何かもう移動しちやっただってというようなことを聞いたんですけど、今も福知山支社のほうに要望活動はできるということなんですね。

はい。

○都市整備課長（久田 涉） 10月1日で、大阪の本社のほうに変わるということです。なので、まだ、今回、要望に行かせてもらったのは、福知山のほうです。以上です。

○委員長（上田 伴子） 分かりました。

それと、もう1点、みどりの券売機ですけども、オペレーターの数が以前よりか増えてない、全国的なあれですけども、これはオペレーターの数を増やしていただくような要望も入れておられるんでしょうか。

はい、どうぞ。

○都市整備課長（久田 涉） 具体的には、まだ入っておりません。以上です。

○委員長（上田 伴子） 私も友人なんかから、オペレーターを呼ばないと、いろんなサービスで処理ができないことが何個かあるみたいでして、なので、そこで大変14人とか15人とか待たんなん数が出てくるので、大変困っているということを知っておりまして、なので、本当にこのことについては、大変鉄道の利用者に、豊岡駅を利用する者にとっては大変困ることだと思っておりますので、ぜひそのことも含めて要望の中に入れていただけたらありがたいと思っておりますが、どうですか。

久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） そういったことも踏まえて、次年度以降はちょっと改善していけたらなと思っております。以上です。

○委員長（上田 伴子） 分かりました。

ほかにはないですか。

芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） すみません、ICOCAが整備されて、もうしばらくはなるんですけども、その利用率だとかそういうのって多分分かんないと思うんですけど、それによって、何かこういうことが変わったとか、何も聞かれてないですか、何かないですか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 具体には聞いてないんですけども、ちょっと情報の一つとして、来年の2月以降で、江原駅と八鹿駅にICOCAの機械が入るとするのは情報として入っております。そうなっても、江原駅に駅員が直ちにいなくなることはないというふうなことは聞いております。

情報としてはそういうことがあるということで、委員言われた今の内容で、何かあったんかというのについては、特には今のところは聞いてないです。以上です。

○委員長（上田 伴子） 芹澤副委員長。

○委員（芹澤 正志） それによって、利用がちょっとでも増えて、それでまた、交通系のカードで経済が回っていくという、いい方向になればいいんですけど、危惧するのは、ICOCAがついたから人が

いなくなるというのが、やっぱりそこが心配なので、そこんところも注意しておいていただければと思います。以上です。

○委員長（上田 伴子） ほかにはないですか。よろしいですか。

それでは、ないようですので、以上で委員会所管事項の現況については終わりますが、この際、当局から何か発言はありませんか。

ないようでしたら、当局の職員の方は退席をしていただいて結構です。お疲れさまでした。

先ほどの所管事項、都市整備課のほうから報告がありますので、都市整備課の方はよろしくお願いたします。

ちょっと時間があれなんですけども、引き続きでよろしいですか。（「よろしいですよ」と呼ぶ者あり）

それでは、初めに申ししておりましたように、都市整備課のほうより報告がありますので、お聞きください。

久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） お手元の豊岡市自家用有償旅客運送チクタク資母の車検切れ車両の使用について説明させていただきます。

本市の都市整備課のほうで管理をします自家用有償旅客運送車両について、車検の有効期限が、切れているにもかかわらず運行していたということが、9月の21日に判明をいたしました。今後、こうした不適正なことが生じないように、再発防止に努めてまいりますということで、記者会見を21日の10時から行っております。

それから、大きい1番で、原因及び概要としましては、書いてあるとおりですけども、事業の担当者として、車検満了日を把握しておりましたが、事業を委託している地元運営協議会に満了日までの対応を徹底しなかったということです。

車検の期間満了日は9月の2日で、発覚したのが21日、この間、運行したのは4日間でございます。それから、乗車人数は延べ6人、その間の走行距離は91キロということです。

ちなみにですが、自家用有償運送、チクタクにつきましては、週3日間の予約運送をしております、この資母につきましては、月、火、木で運行をしております。

判明しました経緯としましては、近畿運輸局神戸運輸監理部に提出しましたこの自家用有償の更新登録のときの審査時に、車検の有効期限が切れてるという指摘が同日、21日にありまして、確認をしましたところ、車検切れが判明したということです。

判明後の対応ですが、直ちに該当車両の使用は中止しました。21日に車検業者へ引き渡して、受付をしておいた方についても、予約をキャンセルしております。

それから、4つ目の再発防止の対応ですが、車検対応については、事業がスムーズに運営できるよう運営協議会にお任せをしておりましたが、市として対応の徹底に今後努めたいと考えております。具体的には、パソコン上で車検満了日が分かるような入力表示するようなポップアップ機能などを活用するなど、失念防止に図ることが1点と、2つ目としましては、車両の運行前、車検期間の満了日が分かるような車内表示や、運転前点検簿など安全な運転のための確認表に満了日を表示するということをしまして、失念防止を図っていきたいと思います。

ちなみに、21日に車を車屋さんのほうに入れまして、翌日の22日の夕方には、車検はもう終えて返ってきております。私どもも21日の日に判明して、22日の記者発表と同時に豊岡警察のほうにも報告に行きまして、私どもが、午後から神戸の、ここに書いてます神戸運輸監理部陸運局のほうに報告とおわびに伺っております。

処分の内容としましては、自家用有償運送になってますんで、条例や規則的な罰則規定はなくて、車検切れだったら、直ちに車検を通してもらったら、その後、1週間の運行停止とかっていう処分はないみたいです。ただ、警察のほうから、その間、運転しました運転手さんに聞き取りをするかも分かれへんというのを豊岡警察からは聞いてますけど

も、具体的に運転手の方が罰金になるかどうかっていうことはないと思うということしか、今のところは聞いておりません。

いろいろとご迷惑をかけて申し訳ありませんでした。以上です。

○委員長(上田 伴子) この件に関して、質疑応答。石田委員。

○委員(石田 清) 庁用車でもなんか車検切れがありましたけど、再発防止策のレベルっていいですか、大体同等なものでしょうか。

○都市整備課長(久田 渉) レベル。

○委員(石田 清) レベルっていうか、庁用車のほうはこういう措置をした、こういう措置をしたというのと、相当性が、いや、ちょっとレベルが低いんだとか。

○委員長(上田 伴子) 久田課長。

○都市整備課長(久田 渉) 今までの公用車で、去年と今年、2回連続やっとするんですけども、それはうちの職員が乗る公用車でして、今回は、運営協議会に豊岡市が買った車両を渡して、一般のお客さんを乗せて運んでると、有償で。ということなんで、意識としては、うちが一般のお客さんを乗せたということになるんで、個人的には、今回のほうが、責任が重たいというふうなことは個人的には思ってます。

○委員(石田 清) いやいや、再発防止策、同じような……。

○都市整備課長(久田 渉) 防止策は一緒です。今書かせてもらっのと防止策は一緒、2通りあるのは同じだと思います。

○委員長(上田 伴子) いいですか。

○委員(石田 清) 私はいいです。

○委員長(上田 伴子) はい、どうぞ。

○委員(福田 嗣久) 再発防止策ですけれども、今までの毎年のことですから、あれ知りませんが、基本的にそれぞれ車両があって、本庁外ですけれども、車検車は随契でも修理会社とかは、それは決まってるんですわな、A社、B社、C社あったら、この業者やって。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今、チクタク、4団体ありますんで、4台あります。それぞれ購入したところの車屋さんに持っていくということになっているみたいで。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 多分そうだろうと思って見とるんですけども、そうであれば、なおのこと、例えば福田自動車が売ったとこだったら、そこにもうきちっとお任せして、1か月前にコミュニティのほうに、車検が9月末で来ます、8月末で来ます、いつ車検を受けましょういうて、もうそこから、最初に依頼しといたらいいな。職員が失念しとったとか、どこどこが失念しとったいうんじゃないで、そんな格好が一番堅いと思えるんだけど、いかがですか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今、委員言われるとおりなんですけど、従来よりそういう形態は取ってきたんですけど、いずれにしても豊岡市の名義の車両なんで、うちに責任はあるんですけども、今回の場合は、車屋さんがはがきを出してなかったんです。

○委員（福田 嗣久） 出してなかった。

○都市整備課長（久田 渉） それは、何で出してなかったかという、車屋さんいわくは、ほかの公用車は、車検の前に行って、やっぱり入札してるらしいんです、市のほうは。なんで、市の車なんで、普通の公用車とチクタクの車を同じように車屋さんは扱ってしまっていて、はがきを送らなくても、市のほうから入札の案内が来るだろうって勘違いされて、はがきを出してなかったというのが今回の原因です。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 今おっしゃったことで理解はするんですけども、当然、入札対象物件とそうじゃない物件とあって、そうじゃないんであれば、もうやっぱり市の管理者のほうから、必ず連絡をしてくださいとか、はがきを出してくださいとか、もうはがきを出すよりも、直接打合せをして、市のほうに

は電話1本で車検しますよということを言うてもらったらいいんだろうし、あとは、基本的には使っていると、車検、いついつしましょうという、この徹底だけできたら、失念とかなんとか言わんでもいいと思うんだよな、その辺のことはやっぱり徹底すべきだと思うし、先ほど石田委員がおっしゃったように、ほかでもありましたんで、何らかの対応をしとかんと、民間でも、あるいは車検切れで運転してて、さっきおっしゃったペナルティーがないだろうと思とるんだけど、基本的には有償で運んどるんだから、何か事故があったら、これはもう申し訳ないで済めへんでな、いうてもそうでしょうが。だから、その体制、車検を受けるぐらいのことはやっぱり誰しもするわけだから、きちっと体制を再度認識を、当局の皆さんの下の職員さんもそうだし、それから、コミュニティのほうも、自動車屋さんもそうだけど、やっぱりしとくべきだろうと思うで。

ちょうど何もなかってよかったけど、何かあったら、本当に運転手さんも善意が悪意になっちゃうからね。運転手さんは、さっき67、65ぐらいの人だったけど、みんな協力しますよいうてやっとなるわけだよな。そんな人に、無車検で何かあったら、大ごとだ、実際ね。その辺だけ徹底を再度お願いしときたいと思います。部長、よろしくお願ひしますよ、それは。

○委員長（上田 伴子） よろしいですか。

○委員（福田 嗣久） はい、よろしい。

○委員長（上田 伴子） 竹中委員。

○委員（竹中 理） 解決策というか、あれなんですけど、例えばそういった車検だとかのそういう担当者の人が、システムなんかにもうやっ入れてることうっていうのはあるんですか、例えば市とかほかの、いわゆる責任ある部署っていうのがあるんですか。

（「一覧表とか」と呼ぶ者あり）一覧表。

○委員長（上田 伴子） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） さっき課長からもありましたけど、昨年10月と今年の6月にその車検切れがありまして、それから、総務課のほうで車両を管理してる分は、総務課で、もうパソコン上に

入れて、全部日にちが来る前にブザーが鳴ったりとか、分かるようなシステムを取ってます。あと、各課で管理してリースしてる車両もありますので、それについては、もう各課で、総務課と同じように車両管理のやり方でやっています。

先ほど説明しましたのが、都市整備のほうも同じように、チクタク、4台しかありませんので、当然4台でしたらしっかりと今後管理はできると思いますので、十分注意して、しっかりと車両管理のほうを努めてまいりたいと思っています。

○委員長（上田 伴子） 竹中委員。

○委員（竹中 理） 聞いたかったのはそういうことなんですけど、要はシステムで、例えば1か月前に赤い警告ランプを出すとか、そういったDXを進めていくのであれば、そういったところをしっかりとされたら、例えばエクセルだったんで、そういったマクロを組んでやるとか、職員の方でもできると思うんですので、ぜひ、それやっていただきたいと思います。

○都市整備部長（澤田 秀夫） よろしいですか。

○委員長（上田 伴子） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 課の中で共通のスケジュール、日にちがずっと入って、今日は何かあつてとかいうスケジュール管理表があります。それに今入れて、いつ車検が来るというのがはっきり分かるように対策を取っております。

○委員長（上田 伴子） 竹中委員。

○委員（竹中 理） 監査で、例えば、毎月月例で監査があつたりとかするんですけど、やっぱりそういったところが、毎回、今回の車検のことじゃなくて、例えば講師料が出すのを遅れてたとか、結構そういうのがほかにもいっぱいあつて、そういったのを繰り返しているということは、やっぱり市民の方にも信用にも、さっき言われたように大事故にもつながるので、ぜひよろしく願いいたしたいと思います。

○委員（福田 嗣久） もう一つだけ。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） すみません、もう一つ、10

月から、道交法でアルコールチェックが入ろうが、その何台以上とかよう知りませんが、詳しいことは、運送業法か、あんなんは該当せえへんのか、そのチクタクなんかは。（「入ります」と呼ぶ者あり）関係ないのかな。（「関係あります」と呼ぶ者あり）何か10月から、何台以上か車持ってるバス会社とか運送会社とか、朝の出勤時にハアして。それは関係ないんだな。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 事務所の中全部ですけど、新しくアルコールチェッカーがまた配布されて、10月からそういうことになつてると思います。

○委員（福田 嗣久） うん、それが、要するにチクタクとかそういうところには関係はないんですかいことなんです。また、一遍調べておきない、そういうこともまたね。

○都市整備課長（久田 渉） そうですね、確認させていただきます、すみません。

○委員（福田 嗣久） はい。ひょっと今思い出して、例えばそんなことはないと思うけどね、アルコールチェックで。

○委員長（上田 伴子） ほかはないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 伴子） それでは、ないようですので、当局職員の方は退席していただいて結構です。じゃあ、トイレ休憩を10分間……（「もう1時間もせえへんだろ」と呼ぶ者あり）はい。（「じゃあ、5分」と呼ぶ者あり）5分でいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

じゃあ、5分間のトイレ休憩。

午前10時56分休憩

午前11時01分再開

○委員長（上田 伴子） それでは、再開します。

次に、（2）委員会の運営方針についてです。

委員会重点調査事項をSide Books上の本日のフォルダの次第等の、資料4ページ目に配信しております。

重点調査事項について、何かご意見等があります

か。（「どこに配信しとるって」と呼ぶ者あり）今来た。よろしいでしょうか。

これで何かご意見等がありますでしょうか。（「いいと思います」と呼ぶ者あり）よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

特にご意見がないようですので、当委員会の重点調査事項はこのとおりにしたいと思いますが、ご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 伴子） 異議がないようですので、そのように決定しました。

次は、（3）番、委員会調査中間報告書（案）について。続いて、（3）の委員会調査中間報告書についてを議題といたします。

今期、間もなく1年間の任期を終了しようとしておりますので、この際、9月定例会の閉会日に当委員会の中間報告を行いたいと思いますが、ご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 伴子） ご異議がありませんので、中間報告を行うことに決定しました。

それでは、過日配信しました中間報告（案）につきまして、修正等のご意見はございませんか。ご意見等がありましたらご発言願います。

太田委員。

○委員（太田 智博） 資料2枚目なんですけど、2枚目の一番上に、チクタクの運営事業者との面談を行いというふうに書いてあるんですけど、これ、昨日読んでまして、何か過去から面談ということで、ここ面談ということで確認はしてるんですけど、例えば意見交換会みたいな感じじゃなかったかなというふうな、加藤さんと出石の振興局でしたときに何か意見交換会っぽかったんですけど、面談かなという、読んでたらちょっとここ引かかったので協議していただけたらと思いますけど。

○委員長（上田 伴子） 今、太田委員のほうから、2ページ目の1行目のチクタク運営事業者との「面談」を行いというのを、「意見交換」というふうにしたほうがいいのではないかという意見がありま

したが、どうでしょうか。（「意見交換のほうがすっきりしますな」と呼ぶ者あり）

よろしいですか、それ。じゃあ、ここの部分を「意見交換」というふうに変更でよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）それじゃあ、そのように修正を後ほど……。

○委員（太田 智博） 委員長。

○委員長（上田 伴子） 太田委員。

○委員（太田 智博） そしたら、下の開催経過の箱の中の4月20日のとこの「面談」も、「意見交換」……。

○委員長（上田 伴子） はい、そうですね。それでは、2か所ね。

ほかはありませんか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 伴子） それでは、その「面談」というところを、「意見交換」というふうに変更を入れさせていただきますので、お願いいたします。

それでは、お諮りいたします。中間報告書の案文については、正副委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 伴子） ご異議がありませんので、正副委員長に一任願います。

なお、今後、それでも修正等お気づきの点がありましたら、お手数ですが、事務局までご連絡いただければと思います。明日、27日正午までにご連絡をお願いいたします。

この際、何か発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 伴子） ないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前11時06分閉会